



な っ と く ん の

山口県立山口博物館 学校地域連携担当

2017年11月 9日 No.200

なるほどなっとくニュース

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。

CM Community Museum
地域の宝 学校の宝

朝鮮通信使からの贈り物 「世界の記憶」

ユネスコ(国連教育科学文化機関)は、重要な歴史的文書を保護し広く公開する「世界の記憶」(Memory of the World)に「朝鮮通信使に関する記憶—17世紀~19世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」を登録することを決定しました。

朝鮮通信使とは、室町時代から江戸時代に朝鮮王国が日本に派遣した使節団のことです。豊臣秀吉の朝鮮出兵によって途絶えましたが、江戸時代に再開しました。主に将軍の代替わりの際に、来日して江戸に向かいました。江戸時代には12回派遣されています。

出前授業で訪れた上関は、朝鮮通信使の寄航地のひとつです。なっとくニュース196号で紹介している上関御茶屋跡などの史跡が残ります。今回、超専寺(上関町長島)所蔵の「朝鮮通信使船上関来航図」も登録されました。また、超専寺の山門は上関御茶屋の門を移築したものです。



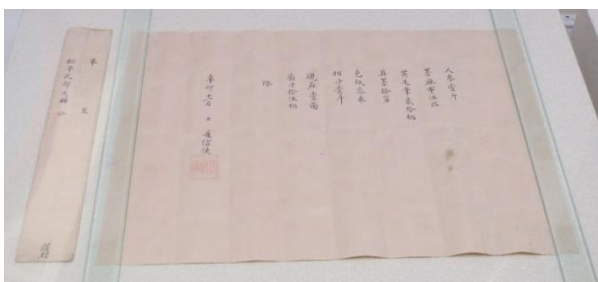
朝鮮通信使船上関来航図
('世界の記憶' に登録)



超専寺山門 (上関御茶屋の門)



正徳元年朝鮮通信使進物並びに進物目録(国指定重要文化財)山口博物館蔵
1711年(正徳元年)に萩藩主毛利吉元が、朝鮮通信使を赤間関(現下関市)で、もてなしたお礼として、受け取った品物とその目録です。この年は、6代将軍徳川家宣が将軍職を継いだことを祝うために派遣されました。目録から、人参、黒麻布、黄毛筆、真墨、色紙、栴子(松の実)、硯石、扇子が贈られたことがわかります。この目録が「世界の記憶」に登録されました。人参以外の品物が目録のとおりに残っており、貴重な資料となっています。



進物目録 ('世界の記憶' に登録)



←
進物が納められた箱
色紙 (中の巻物)



→
左から扇子、硯石、
黄毛筆、真墨、黒麻布

山口博物館では、11月12日まで「正徳元年朝鮮通信使進物並びに進物目録」の登録記念特別展示をしております。